



■ 冠雪害？

普段、雪のあまり降らない地域でも、突然予想を超える大雪が降ることがあります。そんなときには、山の木々に冠雪害が発生することがあります。冠雪害とは、立木の枝葉に雪が降り積もり、その重さのために、木が折れたり曲がったりする被害のことです。

冠雪害は、スギ林でよく発生することが知られています。しかし、最近では、冠雪害に強いといわれているヒノキ林でも、発生するようになりました。



■ 冠雪害の種類

冠雪害の被害の形は大きく分けて3つあります（下図参照）。

- ① 幹折れ 木の幹が途中で折れる
- ② 幹曲がり 幹が大きく曲がり回復不能になる
- ③ 根返り 立木が根元から倒れる



■ どんな林が危険？

冠雪害に対して特に危険な林は「もやしのよう林」です。「もやしのよう林」とは、間伐が遅れた人工林で、非常に過密な状態になった林のことです。

残念なことですが、このような林は、全国的に間伐の実施が遅れているため、岐阜県内でも数多く目にします。

では、実際に冠雪害が発生した林の様子をみてみましょう。

■ 冠雪害林分の調査

平成17年12月の降雪によって、下呂市萩原町四美地内のヒノキ林で冠雪害が発生しました。この林で調査をしてみると、形状比が非常に高く、もやしのような木ばかりでした（形状比は樹高÷胸高直径で表され、数字が大きいほど細長い木であることを示しています）。調査をした木の形状比ごとに被害の状況をまとめると右図のようになります。形状比が高くなるほど被害木の割合が高くなっています。このことは、形状比の高い木が冠雪害に弱いことを表しています。

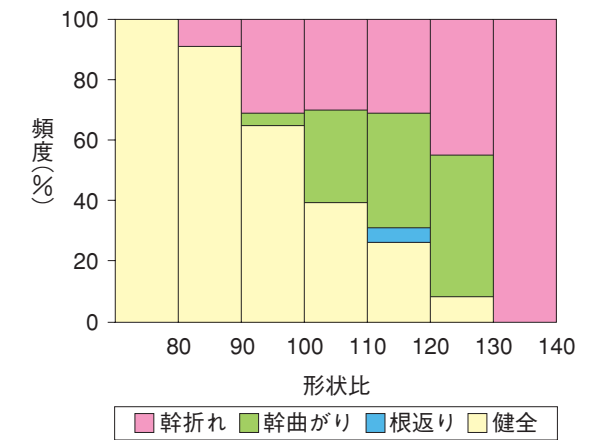


図 形状比ごとの被害形態



冠雪害で林がすかすかになってしまいました



■ どうしたら冠雪害に強くなるのか

冠雪害に強い林にするには、冠雪害に弱い、形状比の高い木を減らす必要があります。通常の間伐であれば、適期に適切な間伐を実施していけば、形状比の高い木は徐々に伐られ、冠雪害の心配はほとんどなくなります。

間伐を繰り返しおこなうことが冠雪害防止の近道です。

しかし、林がもやし状態になってしまったら、簡単には元に戻りません。間伐を行っても、残った木の形状比は高いままで、すぐには下がりにくいです。また、過密な林は間伐後、冠雪害に弱いとの指摘もあるため、間伐は慎重に実施する必要があります。

■ これからの課題

過密になってしまった林での間伐方法は、現在のところ、十分に検討されていません。地形など様々な要因も併せて検討し、過密林分で安心して間伐ができる方法を提案したいと考えています。